

山崎益吉教授 略歴および研究業績

学 歴

- 昭和17年7月 群馬県甘楽郡甘楽町に生まれる
- 昭和36年3月 群馬県立富岡高等学校卒業
- 昭和40年3月 高崎経済大学卒業
- 昭和42年4月 青山学院大学大学院経済研究科修士課程入学
- 昭和44年3月 青山学院大学大学院修士課程修了（経済学修士）
- 平成3年4月 文部省の在外研究委員としてロンドン大学歴史研究所にて研究
～4年3月

職 歴

- 昭和44年4月 高崎経済大学助手
～47年3月
- 昭和47年4月 高崎経済大学講師（日本経済思想史、経済思想史、演習1担当）
～49年3月
- 昭和49年4月 高崎経済大学助教授（日本経済思想史、経済思想史、演習1・2担当）
- 昭和57年4月 高崎経済大学教授（日本経済思想史、経済学方法論、演習1・2担当）
（現在に至る）
- 平成14年4月 高崎経済大学大学院経済・経営研究科兼務担当教員（日本経済思想史研究、日本経済思想史演習担当）（現在に至る）

高崎経済大学における主な役職

- 高崎経済大学経済学部経済学科長（平成4年～平成5年）
- 高崎経済大学附属産業研究所所長（平成6年～平成7年）
- 高崎経済大学第19代学長（平成8年1月～平成11年1月）

所属学会

- 昭和44年 社会経済学会
- 昭和46年 経済学史学会
- 昭和48年 日本経済政策学会
- 平成3年 日本経済思想史研究会

平成8年	横井小楠研究会
平成9年	日本東アジア学会
平成10年	梅岩学会

研究テーマ

経済主義克服の道を模索している。天威から解放された人間本性は止めどもなくその個を主張し、止まることを知らない。行き着く先は経済合理主義、万事カネの世を謳歌し、カネがすべての世になり、「カネのないのは首なしや」、「金銀が氏系図」（井原西鶴）の世界である。それゆえ、資本主義の危機として捉えただけでは十分ではない。経済主義は社会の根幹に関わる問題、人間のあり方、生き方に関わる本質的な事柄であるからである。経済主義をいかに克服するか、が現代社会の危機にたいする解答になると考えているからである。

そこで、主に儒教、朱子学に解答を求め腐心している。その一つが横井小楠研究である。さらに関連して、石田梅岩、二宮尊徳、三浦梅園、熊沢蕃山などを繙きながら経済主義克服の道を模索している。横井小楠との関連でアダム・スミスの道徳哲学体系を繙きながらこの問題に対処している。

その成果は、すでに『横井小楠の社会経済思想』、『日本経済思想史』、『転換期の経済と社会－現代社会の論理を超えて』、『カルチャノミー時代の提唱』、『横井小楠と道徳哲学』、『戦後日本の経済思想－経済主義を超えて』、『経済と道徳』等で展開してきたが、さらに、これらの上に、天威から解放された人間本性の本来の相（すがた）の限界を提示しつつ、経済主義克服の道を追求していきたい。

研究業績

I. 著書

1. 単著

- 『転換期の経済と社会－現代社会の論理を超えて』、多賀出版、1980年。
- 『横井小楠の社会経済思想』、多賀出版、1981年。
- 『日本経済思想史－日本の理想社会への道』、高文堂、1981年。
- 『カルチャノミー時代の提唱』、貝出版企画、1982年。
- 『地域ルネッサンスの誕生』、日本経済評論社、1984年。
- 『経済倫理学叙説』、日本経済評論社、1997年。
- 『横井小楠と道徳哲学－総合大観の行方』、高文堂出版、2003年。
- 『製糸工女のエートス－日本近代化を担った女性達』、日本経済評論社、2003年。
- 『戦後日本の経済思想－経済主義を超えて』、高文堂出版、2004年。
- 『経済と道徳－近江商人と「大学」』、花梨書房、2008年。

2. 共著

- 『高崎の産業と経済の歴史』、高崎経済大学附属産業研究所、1979年。
- 『商業用語辞典』、多賀出版、1983年。
- 『日本の近代化と精神的伝統』、広池学園出版部、1985年。
- 『高崎の経済と産業の歴史Ⅱ』、高崎経済大学附属産業研究所、1987年。
- 『高度経済成長と群馬』、日本経済評論社、1987年。
- 『近代群馬の思想群像』、日本経済評論社、1988年。
- 『市民の哲学』、高崎哲学堂設立の会、1988年。
- 『近代群馬の思想群像Ⅱ』、日本経済評論社、1989年。
- 『論集 江戸の思想』、高崎哲学堂設立の会、1989年。
- 『こころの教育－新しい時代への課題と克服』、21世紀教育懇談会編、1991年。
- 『日中実学史研究』、思文閣、1991年。
- 『群馬・地域文化の諸相－その濫觴と興隆』、日本経済評論社、1992年。
- 『東亜経済社会と現代化』、山西経済出版（中国）、1994年。
- 『群馬に見る人・自然・思想』、日本経済評論社、1995年。
- 『開発の断面』、日本経済評論社、1996年。
- 『地方の時代の都市・山間再生への途方』、日本経済評論社、1997年。
- 『横井小楠のすべて』、新人物往来社、1998年。
- 『近代群馬の蚕糸業』、日本経済評論社、1999年。
- 『現代アジアのダイナミズム』、日本経済評論社、2000年。
- 『経済思想史辞典』、経済学史学会編、丸善、2000年。
- 『由利公正のすべて』、新人物往来社、2001年。
- 『近代群馬の民衆思想－経世在民の系譜』、日本経済評論社、2004年。
- 『実心実学の発見－いま甦る江戸期の思想』、論創社、2006年。

II. 学術論文（研究ノート含む）・単著

- 「初期マルクス研究－唯物史観の成立過程」（修士論文）、1969年、青山学院大学院経済研究科。
- 「初期マルクス研究－唯物史観の成立過程」、『高崎経済大学論集』、1970年3月。
- 「初期マルクス研究－人間自己疎外化」（研究ノート）、『高崎経済大学論集』、1970年7月。
- 「初期マルクス研究－K. マルクスとL. フォイエルバッハ」、『高崎経済大学論集』、1970年11月。
- 「初期マルクス研究－K. マルクスとM. ヘス」、『高崎経済大学論集』、1971年11月。
- 「幕末経世論－横井小楠・学問論」、『高崎経済大学論集』、1972年1月。
- 「岐路に立つ近代社会－社会経済学的考察」、『産業研究』、1972年3月。
- 「幕末経世論－横井小楠・経済論」、『高崎経済大学論集』、1973年11月。

「横井小楠の経済思想—近代日本の原点としての経済思想」、『高崎経済大学論集』、1974年3月。

「幕末経世論—横井小楠・開国論」、『高崎経済大学論集』、1974年8月。

「経済思想史論序説」、『高崎経済大学論集』、1974年9月。

「幕末経世論—横井小楠・政治論」、『高崎経済大学論集』、1974年11月。

「低成長に入った日本経済」、『産業研究』、1975年3月。

「横井小楠と明治維新」、『高崎経済大学論集』、1976年3月。

「農業構造改善における換地の諸問題について」、『高崎経済大学論集』、1977年3月。

「農業構造改善事業における換地と評価について」、『産業研究』、1977年3月。

「幕末経世論—横井小楠・教育論」、『高崎経済大学論集』、1978年2月。

「日本農業の現状—高度成長と農業の変貌」、『産業研究』、1978年2月。

「高崎の地租改正—五万石騒動との関連において」、『産業研究』、1979年2月。

「労働の哲学—現代社会と労働概念」、『産業研究』、1979年2月。

「横井小楠と現代—堯舜孔子之道・西洋器械之術」、『評論』（月報）、1979年6月。

「横井小楠と現代」、『高崎経済大学論集』、1979年11月。

「横井小楠110年忌年済祭」、『高崎経済大学論集』、1980年2月。

「省エネルギー時代と市民生活」、『産業研究』、1980年2月。

「横井小楠の社会経済思想」、『高崎経済大学論集』、1980年11月。

「経済と道徳—横井小楠とA. スミス」、『高崎経済大学論集』、1982年2月。

「経済学の現代的課題」、『高崎経済大学論集』、1987年3月。

「徳川経済思想史論序説Ⅰ」、『高崎経済大学論集』、1987年9月。

「徳川経済思想史論序説Ⅱ」、『高崎経済大学論集』、1988年3月。

「徳川経済思想史論序説Ⅲ」、『高崎経済大学論集』、1988年9月。

「徳川経済思想史論序説Ⅳ」、『高崎経済大学論集』、1989年3月。

「徳川経済思想史論序説Ⅴ」、『高崎経済大学論集』、1989年6月。

「経済学方法論叙説」、『高崎経済大学論集』、1990年2月。

「経済学の哲学的基礎」、『高崎経済大学論集』、1990年9月。

「二宮尊徳の経済思想」、『高崎経済大学論集』、1991年3月。

“YOKOI SHONAN AND EAST ASIA”、『高崎経済大学論集』、1993年12月。

「日本経済思想史の現状、課題と方法」、『高崎経済大学論集』、1994年6月。

「東アジアの実学と日本」、『産業研究』30-2、1995年3月。

「現代社会の危機と横井小楠の実学」、『高崎経済大学論集』37-4、1995年3月。

「市場経済と日本の伝統的経済思想」、『高崎経済大学論集』、1996年2月。

「中日企業文化と社会経済発展」、『高崎経済大学論集』、1996年3月。

「横井小楠の経済思想『富国論』の現代的意義」、『高崎経済大学論集』42-2、1998年11月。

- 「横井小楠の経済思想－『時務策』の現代的意義」、『高崎経済大学論集』42－2、1999年9月。
- 「生の経済学の提唱」、『自然と実学』創刊号、2000年6月。
- 「横井小楠・由利公正の貨幣論」、『東アジア実学国際シンポジウム文集』、2000年11月。
- 「経済学視点から見た横井小楠の国家観」、『環』5、2001年3月。
- 「横井小楠の实心実学と東アジア」、『高崎経済大学論集』43－4、2001年3月。
- 「横井小楠の社会経済思想と経済合理主義」、『産業研究』37－1、2001年9月。
- 「横井小楠・由利公正の貨幣論」、『自然と実学』2、2002年3月。
- 「狂牛病の教訓と経済合理主義」、『自然と実学』2、2002年3月。
- 「横井小楠と道徳哲学－A. スミスとの比較において」、『高崎経済大学論集』45－2、2002年9月。
- 「東アジアの近代化と日本－和田英と『富岡日記』」、『西洋資本主義の東進と東アジア』、2002年10月。
- 「横井小楠の税思想」、『別冊環7』、2003年11月。
- 「横井小楠の経済思想－節儉論から有効需要論へ」、『自然と実学』3、2003年11月。
- 「幕末の思想家・横井小楠に学ぶ経済哲学－経済行動の基本に誠意あり」、『人間会議』冬号、2003年12月。
- 「石田梅岩の経済思想－心学の現代的意義」、『实心実学思想と国民文化の形成』、2006年10月。
- 「田村利良の思想と行動－限りなく理想を追い求めた人」、『産業研究』、2007年3月。
- 「梅岩と尊徳－布施と推譲」、『産業研究』、2008年3月。